

文化藝術交流

Arts and Cultural Exchange

文化芸術交流

Arts and Cultural Exchange

美術、音楽、演劇、文学、映画などの芸術から、食、ファッション等の生活文化にいたるまで、日本の文化芸術を紹介し、文化芸術分野のグローバルな交流をプロデュースし、ネットワークづくりを支援しています。

日本の芸術文化を世界に広める

海外の人々が日本の芸術文化と触れ合うことで、日本人が育んできた美意識や価値観を理解し、感じる機会を創出する事業を展開しています。これらの事業は造形美術、舞台芸術、映像・文芸、生活文化と広範な領域におよび、古典作品や伝統芸能、ポップカルチャーやサブカルチャー、現代演劇や現代美術等の展示、公演、出版、映画上映などに関わっています。日本の文化を多方面に発信することで、文化による国際交流の輪を広げています。

情報提供・ネットワーク

芸術や文化を通じた国際交流を効果的に進めるためには、互いの国の芸術文化に関する情報や、担い手同士のネットワークが不可欠です。国際交流基金は、舞台芸術、文学、映画などの分野において、日本の最新情報を収集し、ウェブサイトやニュースレターとして海外へ発信しています。また、芸術分野における国際展や見本市など、人や情報が集まる場を創出したり、それらの活動への支援を行っています。

日中交流センター事業

日中交流センターは、日本と中国の次代を担う若い世代の交流を促進するために2006年に設立されました。中国の高校生を約11カ月間日本に招へいし、日本の高校生と同じ学校生活・家庭生活を送る機会を提供する「中国高校生長期招へい事業」を展開する一方、中国国内では日本の雑誌、漫画、音楽CDなどを通じ、日本の最新情報を紹介する「ふれあいの場」事業を実施しています。また、日中両国の若者が、ブログや掲示板などを通じて参加・交流することのできる日中両言語のコミュニティ型ウェブサイト「心連心WEB」を運営し、日本と中国の未来を担う若者たちの交流を促進しています。

文化芸術交流事業は、
左記のコンセプトに基づき、
右の4分野をカバーする
事業ラインナップを
展開しています。

造形美術

国内外の美術館・博物館などの協力を得て、日本の美術・文化を海外に紹介する大型展覧会を開催する一方、現代美術、写真、工芸、建築、デザイン、日本人形などさまざまなテーマで企画されたコンパクトな巡回展を世界中で実施しています。また、国単位での参加が求められる「ヴェネチア・ビエンナーレ」などの国際展で日本代表作家の展示を行うほか、海外で企画・実施される優れた展覧会への助成、作家や美術関係者等の人物交流事業など、美術分野における国際交流の推進と情報発信に取り組んでいます。



© Kupferstich-Kabinett, SKD Photo:Herbert Boswank

舞台芸術

歌舞伎、文楽、能楽といった伝統芸能から、ジャズ、クラシック、コンテンポラリーダンス、現代演劇など、さまざまな日本の舞台芸術を海外に紹介しています。また、海外の芸術家との国際共同制作、日本の舞台芸術に関するレクチャーやデモンストレーション、公演団体への支援・助成なども行う一方、日本の舞台芸術に関する情報を収集、世界に発信するウェブサイト「Performing Arts Network Japan」の運営や、東京芸術見本市への参画など、情報交流やネットワーク促進も行っています。



映像・文芸

日本のテレビ番組の海外放映や、海外で制作される日本に関するテレビ番組・映画への助成、日本映画祭の開催、国際映画祭における日本映画上映へのサポートなど、映像を通じた日本理解の機会をつくります。文芸分野では、海外の出版社や翻訳者に向けて日本の書籍を紹介する季刊誌『Japanese Book News』を刊行。翻訳・出版への助成や、海外での図書展への参加などを通して、日本文学が海外に広まるための土壌づくりを行っています。



生活文化

茶道、生け花、武道、食、大道芸など日本人が生活のなかで生み出した文化を、講演やデモンストレーション、ワークショップの形で海外の人々に紹介し、体験してもらう機会をつくっています。その他、文化財保存や博物館における展示、スポーツや音楽の実技指導など、日本の文化を支える優れた知識や技術をもった専門家を海外へ派遣し、その国の文化振興に貢献しています。



タイ・バンコクにて初の大規模な現代日本美術展を開催

[TWIST and SHOUT : Contemporary Art from Japan 展]

これまでタイの現代美術界では、アーティストラン・スペースやオルタナティブスペース、大学附属のギャラリーを利用した中小規模な展覧会が主流で、本格的に現代美術を紹介する美術館が望まれていました。一方、日本の現代美術はこのようなタイの美術状況を受け、単発で紹介されることはあっても網羅的に紹介されることはほとんどありませんでした。そのような状況下、2008年バンコク都は繁華街サイアムを中心に9階建ての文化複合施設「バンコク芸術文化センター」(BACC)をオープン。翌年2009年は「日メコン交流年」に当たり、この機会を捉え、国際交流基金ではBACCと共同で、日本のポップカルチャーと密接な関連をもつゼロ年代の現代美術を紹介する初の大規模な展覧会として「TWIST and SHOUT」展を実施しました。

日本のポップカルチャーであるマンガやアニメ、キャラクターが世界的に華やかに紹介され、人気を博していますが、一方で、現代的な実存不安や社会の負の側面から来る閉塞感を癒そうとする過程で生まれてきた新たな想像力、たとえば「セカイ系」と呼ばれる物語類型や、最近の「決断主義」と

呼ばれる動向も、サブカルチャーを通じて海外にも紹介され、ひそやかな人気を博しています。この一見相反する2つの側面はゼロ年代の日本の若者文化の特徴とも言え、本展はこれらの日本の若者文化の両義性を「捻れ」と「叫び」として注目し、ポップで親しみやすい表現を備えつつ、日本社会の文化状況と真摯に向き合おうとしている日本の現代美術作家17人を、絵画、彫刻、映像、写真、インスタレーションなどによって紹介しました。近年、情報のグローバル化によって進むアジア全域を覆う若者文化の共通性は、タイと日本の視覚文化の異質性を見えにくくしましたが、日本のポップカルチャーが人気を博しているタイの、バンコクという大都市で、日本の現代美術の最新の動向を提示したこの展覧会は大きな反響を呼び、現地のメディアに多数取り上げられ、会期中の入場者数は3万2千人を突破しました。これは設立間もないBACCにとっても、また本格的な現代美術展を希望していたタイの美術関係者にとっても画期的なことでした。

[バンコク芸術文化センター(タイ)、2009年11月19日～2010年1月10日]



出品作家

草間弥生
ヤノベケンジ
会田誠
小谷元彦
山本桂輔
金氏徹平
千葉正也
青木陵子
泉太郎
のびアネキ
西野達
雨宮庸介
青山悟
志賀理恵子
高嶺格
宮島達男
遠藤一郎

「TWIST and SHOUT」展会場風景

日本文化の伝統と新しい息吹を 舞台から生き生きと伝える

■チェーホフ国際演劇祭2009参加 文楽ロシア公演

2009年6月から7月にかけて、モスクワで開催された「チェーホフ国際演劇祭2009」から正式に招待を受け、近松門左衛門原作「曽根崎心中」を8回にわたって上演しました。日本の三大古典芸能のうち、能と歌舞伎はすでに紹介されていたロシアで、初めて文楽（人形浄瑠璃）の本格公演が行われた背景には、世代を超えた日本文化への関心の高さがあります。

ロシアでは、文楽が登場する北野武監督の映画「Dolls」（2002年）が2年を超えるロングランを記録したこともあり、本公演は映画ファンの注目も集め、会場には若者の姿が目立ちました。各メディアの報道に加え、口コミの評判も終盤の集客につながったようです。各分野の専門家からも文化交流事業として高い評価を受け、今後のロシアにおける日本研究へも大きな影響を与えうると認められました。

[プーシキン劇場（モスクワ）、2009年6月30日～7月8日]

■中央アジア・コーカサス巡回音楽公演——A Thrilling Music Night with Four Japanese Musicians

中央アジア交流年事業の一環として実現したのが、中央アジア・コーカサス4カ国での、薩摩琵琶、奄美シマ唄、ギター、ボーカル、パーカッションによる巡回音楽公演でした。邦楽器と洋楽器の組み合わせによる、日本音楽の固有性と普遍性



を内包したダイナミックな演奏は各地でインパクトを与え、各公演ともスタンディングオベーションで包まれました。また、2010年3月には、ウズベキスタンで共演したユルドゥス・トゥルディエワ氏を日本に招き、帰国公演を開催しました。[国立劇場（トルクメニスタン）、国立音楽院（ウズベキスタン）、国立ロシア演劇劇場（アゼルバイジャン）、国立ルスタヴェリ劇場（グルジア）ほか、2009年11月17日～27日]

■沢 知恵 韓国公演 —— The Line

ソウル日本文化センターの移転オープンを記念して、日本人の父、韓国人の母をもつシンガーソングライター・沢 知恵氏によるライブを、ソウル、釜山で開催しました。同氏は1998年に韓国政府より公式に認められ日本語の歌を歌うなど、早くから日本と韓国との交流を続けてきました。日韓にとって節目の年である2010年、両国にいまだに横たわるさまざまな「Line（ライン）」がなくなるよう祈りを込め、オリジナル曲をはじめ、日韓で親しまれている曲を日本語、韓国語、英語で歌いました。

[KT&G サンサンマダンライブホール（ソウル）、延世大学百周年記念館コンサートホール（ソウル）、釜山市民会館小劇場（釜山）、2010年2月2日～5日]



[上] 文楽ロシア公演ポスター
[左上] 中央アジア・コーカサス巡回音楽公演
——A Thrilling Music Night with Four Japanese Musicians
[左下] 沢 知恵 韓国公演 —— The Line
Photo : KT&G SANGSANG MADANG

日本の映像作品と図書を積極的に 海外に紹介し、日本文化の姿を伝える

■フィリピンでの日本映画祭 Eiga-sai 2009

マニラ日本文化センターと在フィリピン日本大使館との共催による本映画祭は、「Eiga-sai」としてフィリピンの映画愛好者や学生、日本語を学んでいる人たちの間ですっかり定着しています。今年度は日比友好月間のオープニング事業として、『ALWAYS 三丁目の夕日』『明日の記憶』『かもめ食堂』『嫌われ松子の一生』など計8作品が上映され、フィリピン国内の6会場での総入場者数は20,309人と盛況でした。

[マンドラヨシティ、ケソン市、ダバオ市、セブ市、バギオ市、2009年7月2日～8月20日]

■中欧4カ国でテレビ番組『ハチミツとクローバー』放映

ハンガリーの民放テレビ局であるANIMAXチャンネルに、フジテレビ制作の『ハチミツとクローバー』全11話を提供し、ハンガリー、チェコ、スロバキア、ルーマニアの4カ国で放送しました。ブダペスト日本文化センターで実施したウェブサイト上のアンケートでは、原作漫画を知っているハンガリー人の視聴者から、「漫画では見えなかった日本人の日常生活や食事、信仰心や迷信などを知ることができ、とても気に入りました」という声が寄せられました。アンケートは、都市部よりも地方在住の若者からの投稿が多く、日本関連の文化紹介事業が少ない地方在住者にとって、本テレビ放映は現代日本を知る良い機会となったようです。

■サウジアラビアで国際ブックフェアに参加

2009年度は、海外の16カ国・16都市の国際図書展に参加

しました。なかでも、サウジアラビアの首都で開催された第28回リヤド国際ブックフェアは、参加国23、総入場者数200万人以上という大規模なものでした。在サウジアラビア日本大使館および社団法人出版文化国際交流会(PACE)との共同で出展した日本ブースには、書籍382冊、カタログ類1,500冊が展示され、会期中3,000人が来場し、賑わいました。折り紙のデモンストレーションなども好評を博し、ブースでの展示に対する評価も高く、本の購入を希望する声が多数寄せられるほど反響が大きいものでした。

[サウジアラビア、2010年3月2日～12日]

■日本理解を促進する図書の翻訳出版・助成

国際交流基金は、優れた日本文学作品などの翻訳・出版や、日本文化紹介図書の書き下ろし作品の出版に対して助成を行い、日本文化への理解を深めてもらう活動を行っています。2009年度には、76件・51冊・27カ国の出版・翻訳事業を実施しました。角田光代『八日目の蟬』英語訳(講談社インターナショナル)や加藤周一『日本文化における時間と空間』仏語訳(CNRS Editions)などのほか、スロベニア語への出版・翻訳助成を行った川端康成『雪国』(Sanje出版社)は、日本語から直接翻訳・紹介される図書が限られているスロベニアで、日本のノーベル文学賞受賞作家の作品が初めて紹介されたとあって、メディアにも取り上げられ評判となりました。翻訳者イズトック・イルク氏による解説も付されており、「現代恋愛小説が創造力の最高峰ではない」と古典の魅力が紹介されています。



[上] 第28回リヤド国際ブックフェアでの日本ブース
[左] Eiga-sai 2009 リーフレット(フィリピン)

多様な分野の人物交流を通して 日本理解促進や相手国の文化振興に貢献する

■カナダにおける日本酒についての講演と試飲

食、酒を中心とした文筆活動家・藤田千恵子氏を派遣。モントリオールでは日本をテーマに開催された学術会議と食のデモンストレーション「アジア・フードプリンツ2010」において、日本における日本酒ブームとその後についての講演を実施。バンクーバーでは、リカーストアや料理雑誌関係者などを招き、日本酒の製造過程の説明や試飲などを通じて、日本酒に対する理解を深めてもらいました。

[カナダ、2010年3月4日～12日]

■南米での書のレクチャー・デモンストレーション

書家の紫舟氏をアルゼンチン、ウルグアイ、チリの南米3カ国に派遣し、新しい日本文化紹介事業の試みとして書の講演とデモンストレーションを実施。音楽家とのコラボレーションも行うなど、ダイナミックなパフォーマンスは各地で好評を博しました。

[アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、2009年11月1日～16日]

■欧州での和菓子の紹介

ドイツ、イタリア、ギリシャの欧州3カ国では、松江市の彩雲堂の和菓子職人3人を派遣し、和菓子の歴史や背景を解説。現地の菓子職人を対象としたワークショップでは参加者とともに和菓子づくりを行い、入場制限をかけるほどの大盛況となりました。

[イタリア、ドイツ、ギリシャ、2009年11月14日～28日]

■トルコでのカマン・カレホユック遺跡文化財展示・保存支援

カマン・カレホユック博物館（2010年7月開館）へ、展示技術の専門家、永金宏文氏（株式会社ディグ）を複数回にわたって派遣。開館の準備段階において、現地の学芸員への技術指導をはじめ、展示模型の設計や制作指導を行いました。

[トルコ、2009年5月19日～29日、2010年2月28日～4月13日]

■ベトナム若手文化人グループ招へい

ベトナム日本文化交流センターの開設（2008年3月）を機に、新たな交流事業として翻訳家、映画監督、キュレーター、文芸評論家、建築家、新聞記者などのベトナムの若手文化人たちを日本に招へいし、関係諸機関の視察や専門家との意見交換を通じて文化人ネットワークの強化と拡充を図りました。また、京都や世界遺産である白川郷などを視察し、さまざまな日本文化に触れる機会となりました。

[東京、高山、京都、広島、2010年3月28日～4月7日]

■第19回開高健記念アジア作家講演会シリーズ

日メコン交流年にあたる2009年度には、タイから若手作家のウティット・ヘーナムーン氏を招へいしました。東南アジア文学賞を受賞したヘーナムーン氏は初の海外講演として日本国内4カ所で講演を行い、各会場で短編集を配布。両国でメディアに取り上げられました。

[東京、福岡、大阪、函館、2010年3月18日～27日]



[上] ベトナム若手文化人グループ招へい・
アーツ千代田3331での対話 Photo : Kenichi Aikawa
[左上] 東京視察時のウティット・ヘーナムーン氏
Photo : Tadao Kawamura
[左下] 欧州での和菓子の紹介

未来志向の日中関係を築くために 3つの事業を実施

日中交流センターは、日本と中国のより深い青少年および市民交流の実現をめざして2006年4月に国際交流基金内に設立されました。

■中国高校生長期招へい事業

中国の高校生に、11カ月間日本の高校に通い、同世代のクラスメートやホストファミリーなど多くの日本人々と交流することで、日本の社会や文化について、より実感に基づいて理解してもらう機会を提供しています。2009年度には4年目を迎え、7月末の第3期生26名の帰国に続き、9月に第4期生35名（男子5名、女子30名）が来日しました。全国各地の高校で、部活動や学校行事、ホームステイ生活を経験することにより自立心や協調性を身につけることができ、第3期生に対するアンケート調査では9割以上の生徒から「非常によかった」との回答を得ています。また、受け入れ校やホストファミリーに対するアンケートでも、受け入れた生徒について肯定的な評価が8割以上を占めました。ホストファミリーからは「初めはコミュニケーションをとるのに困りましたが、徐々に内面まで話し合えるようになり嬉しく思いました」といった、長期招へいならではの答えが寄せられています。

■ウェブサイト「心連心WEB」運営

日中同時翻訳機能により、日本語・中国語のどちらでも意見交換をすることができる「心連心WEB」(<http://www.chinacenter.jp/>)は、上記の中国高校生長期招へい事業で日

本に滞在中の高校生や、21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)の短期訪日／訪中高校生の声をブログ形式で投稿できるコーナーを中心に、日中の情報発信を行っています。等身大の両国の若者の姿を紹介することで、未来の日中友好の礎を築くことをめざしています。本サイトの対象は両国の若い世代でありながら、より広い世代からの反響も大きく、「学生たちの目に実際の日本がどう映っているのか、その感想を見ることによって、日本の文化や特徴などを再認識することも多いです」といった声も寄せられています。本サイトの2009年度のアクセス数は1カ月あたり8万4千件（概算）で、昨年度より約1万6千件の増加となりました。

■「ふれあいの場」の設置・運営

「ふれあいの場」は、日本に関する情報が少ない中国の地方都市において、若者を中心に日中の文化交流が体験でき、日本の雑誌・書籍・CD・DVD等を通して現代日本文化に触れられる場です。2008年までに、四川省成都市、吉林省長春市、江蘇省南京市、吉林省延辺市の4カ所に設置され、2009年度には新たに青海省西寧市、江蘇省連雲港市、黒龍江省ハルビン市にも開設されました。「ふれあいの場」ではさまざまな日中文化交流イベントも実施しています。特に2010年3月に南京ジャパンウィークの一環として開催された「南京ふれあいの場」J-popイベントは好評で、アンケートの回答者の100%から満足との回答を得ることができました。



[上]「南京ふれあいの場」での折り紙体験イベント
[左] 中国高校生長期招へい第4期生来日歓迎レセプションの様子